

地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワーク
地域医療連携推進評議会 議事概要

1. 開催日時 : 2020年6月23日(火) 15時00分～16時00分
2. 開催場所 : 関西医科大学枚方学舎医学部棟13階「法人大会議室」
3. 構成員総数 : 5名
4. 出席構成員 : 藤本良知、吉野敬昌、木村容千、大浅田寛、
山崎宏(意見書提出による出席)
その他出席者 : 山下敏夫(代表理事)

5. 議 案 :

- 第1号議案 2019年度事業報告について
- 第2号議案 2019年度決算について
- 第3号議案 2020年度事業計画・予算について

6. 議事の経過及びその結果 :

開会に先立ち代表理事から挨拶があった。また、事務局が出席者の確認を行い、本日の評議会は構成員5名全員が出席(内、1名が意見書提出による出席)し、定款第45条に基づき有効に成立することが確認された。

定款第47条に基づき、出席した構成員(意見書提出による出席者を除く)の互選により藤本良知 枚方市医師会名誉会長が議長に選出された。議長は各構成員に自己紹介と挨拶を依頼した後、評議会の開会を宣した。議事の経過の要領及びその結果は次の通り。

第1号議案 2019年度事業報告について

議長の求めに応じて、事務局から2019年度事業について資料に基づき報告があった。また、代表理事から昨年度は地域医療連携推進法人の認定初年度であったため、迅速に連携を開始できる医療安全、感染対策、接遇の領域で共同研修等を実施したと補足説明があった。

続いて、以下の通り構成員からの評価、意見があった。

- ・自身の組織でも企業の健康チェックサービスの利用支援を行っており、健康診断奨励の重要性を感じている。様々な機関と連携しつつ、健康診断の推進も検討してほしい。また、様々な医療機関等で看護師不足が叫ばれているため、この課題にも対処していくことが望ましい。
- ・医療連携推進業務を行うにあたっては様々な機関に周知し、情報提供を行う体制を構築していく必要がある。
- ・クリニックにも看護師不足の問題がある。一度休職すると復帰することが難しい現状があるため、「関医・看護師リカレントスクール」との連携などにより意欲のある看護師の社会復帰を積極的に進めてほしい。
- ・地域医療連携推進法人の業務を一般の方にも伝えていく取り組みが必要であり、地元メディアなどを活用しながら広報を行ってはどうか。また、評議会に対しても業務のより具体的な情報(共同研修であれば参加者数、参加者の意見など)を提示してもらえるとさらに詳しい内容が把握できる。

第2号議案 2019年度決算について

議長の求めに応じて、事務局から2019年度決算について資料に基づき説明があった。

続いて、議長から本議案に関する評価、意見の確認があり、構成員から適切に業務が遂行されていると評価された。

第3号議案 2020年度事業計画・予算について

議長の求めに応じて、事務局から2020年度事業計画・予算について資料に基づき説明があった。また、代表理事から以下の通り補足説明があった。

- ・医療安全・感染対策の連携では昨年度の共同研修に加え、専門家による参加施設のラウンドを計画している。
- ・今年度の重点業務として、検査機器利用の効率化を図るため、関西医科大学附属病院で構築予定の検査機器（放射線部門）外部予約システムの活用を検討している。
- ・医薬品・医療機器の共同価格交渉は参加施設の情報を整理する必要があるため、中長期的な課題としている。

続いて、以下の通り構成員からの評価、意見があった。

- ・様々な医療連携推進業務の実施にあたっては、連携内容やその効果を具体的・魅力的に発信してほしい。また、ホームページに辿り着きやすくしたり、健康な人にも興味を持ってもらえたりするような工夫も必要である。さらにこの地域の医療への理解を深めてもらえるよう、北河内医療圏の状況や特徴も解説してほしい。
- ・参加施設全てが医療・介護技術の変化に対応できるよう、医療・介護の最新情報について常に共有できる体制を作してほしい。
- ・検査予約システムに関して、患者の来院の手間が省けるのは大きなメリットである。また、検査所見も添付すれば紹介元としてもスムーズに診療ができる。

以上、議長は地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワークの地域医療連携推進評議会に関する全ての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。また、閉会に際して代表理事から挨拶があった。

以上